

7. 1855 次調査報告

遺跡名	武蔵国府関連遺跡・清水が丘遺跡・清水が丘西遺跡
グリッド	N89-6次
所在地	東京都府中市清水が丘2-30-2の一部
現地調査期間	令和2年7月1日～令和2年7月30日
面積	52.3㎡
遺物出土量	コンテナ7箱(110袋)
検出遺構	竪穴建物跡2棟(N89-S112・13) [奈良・平安時代] その他の遺構1基(N89-SX5) [奈良・平安時代]
調査担当者	西野善勝
調査従事者	中條寛・大澤一重(府中市遺跡調査会), 高崎修吾・吉田義久・横田龍介・ 大島進・手塚さとみ(株)Acube



第1855-1図 調査地区位置図(1/5,000)

1 調査地区の概要

当調査地区は、京王線東府中駅の南南東約330mの地点、国府集落である国衙地域の東側に隣接する清水が丘地域の中央部、国衙跡から約1.5km東に位置する。地形的には府中崖線から北約110mの立川段丘に立地する。

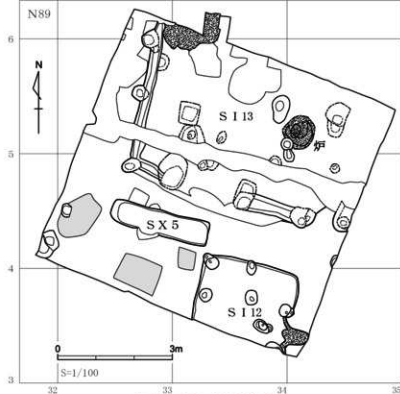
2 遺構と遺物

竪穴建物跡2棟と、その他の遺構1基及びピット4基を検出した。遺構確認面は、北側が地表から-55cm、南側は-25cm、第IV層である。

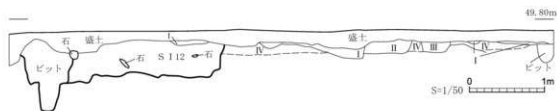
竪穴建物跡

奈良・平安時代の竪穴建物跡2棟を検出した。規模が異なるが、共に中心軸がほぼ方位に沿う。

N89-S112 小規模の竪穴建物跡で、南側が調査地区外に及ぶ。規模は東西2.6m、南北2m以上、深さ0.25mを測る。竈は、東壁に付設される。規模は中央部軸長70cm、袖部内幅27cm、



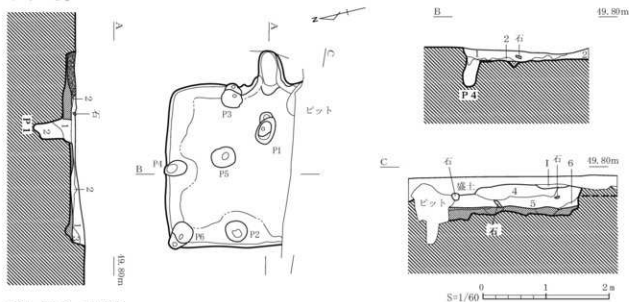
第1855-2図 調査全体図



第1855-3図 南壁断面

火床掘り込み 12 cm 測る。壁はやや開き気味に立ち上がる。床面は平坦であり掘り方掘削後に埋め戻して構築されている。床面を切るピットが 7 基確認されたが、南側が調査地区外に及ぶ 1 基は、断面の観察により本遺構に付属しないものと判断した。

遺物は、竈から土師器・台付甕の底部 (01) と覆土中から縄文土器・深鉢の小片 (02) が出土している。



N89-S112 土層説明

1. 暗褐色土 ローム粒小粒少量, 橙色粒小粒, 黄白色粘土粒小粒微量含む。しまりやや強, 粘性やや強。
2. 暗褐色土 黄褐色土, ローム粒小粒中量, 橙色粒小粒微量含む。しまりやや弱, 粘性やや弱。
3. 暗褐色土 黄褐色土, ローム粒小粒中量, 橙色粒微量含む。しまり弱, 粘性弱。
4. 暗褐色土 ローム粒小〜中粒少量, 赤色粒小粒, 白色粒小粒微量含む。しまりやや強, 粘性強。
5. 暗褐色土 ローム粒小〜中粒少量, 白色粒小粒, 赤色粒小粒微量含む。しまりやや強, 粘性強。
6. 暗褐色土 黄褐色土, ローム粒小粒中量, 赤色粒小粒微量含む。しまりやや弱, 粘性強。
- P1 暗褐色土 暗褐色土を主体にローム土を少量まだらに含む。ローム粒小粒少量含む。しまりあり, 粘性あり。
- 2 暗褐色土を主体にローム土を微量まだらに含む, ローム粒小粒中量含む。しまりあり, 粘性やや強。
- P4 暗褐色土 暗褐色土を主体にローム粒小粒を少量含む。しまりあり, 粘性あり。

S112		位置	遺構
グリッド	N 89 (33 ~ 34, 3 ~ 4) 区。	東壁中央南寄り。	白色砂質粘土。
プラン・主軸	方形。N-103° E。	中央部	70 (90) cm。
規模	南北 1.95 (2.00) 以上 × 東西 2.48 (2.60) m。	壁掘り込み	U字形に 50 cm。
壁	高さ最大 25 cm。やや斜めに立ち上がる。	床掘り込み	楕円形に 12 cm。
ピット	6 基	奥壁	75°
溝	なし。	通	不明。
床	掘削のままで。平坦。	高 袖部内幅	27 cm。
掘り方	全体的に浅く平坦に掘り込む。	内方張り出し	不明。
竪穴の備考	南部は調査地区外。床面は硬化しており平坦である。	火床	火床は建物の床とほぼ同じレベル。

第1855-4図 N89-S112 実測図

暗褐色土を主体とする覆土の様相と出土した遺物から奈良・平安の所産と考えられる。

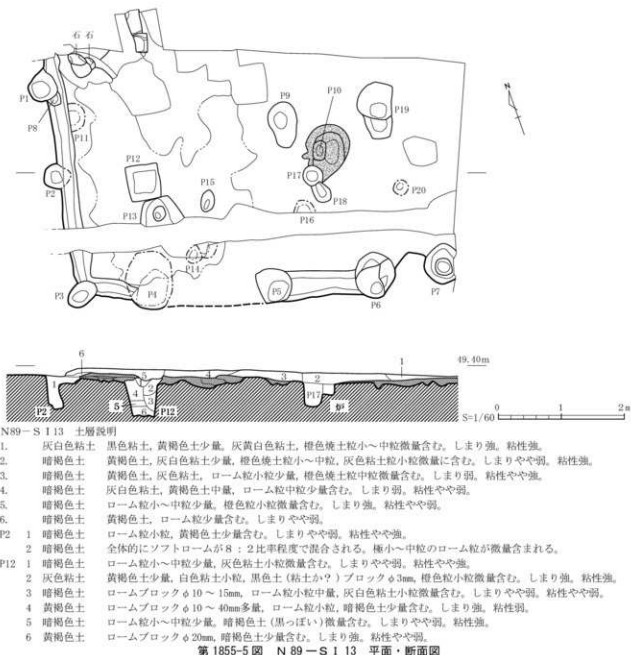
N89-S113 大型の竪穴建物跡で、北側及び東側は調査地区外に及ぶ。規模は東西 6.55 m 以上、南北 4.28 m 以上、深さ 0.2 m を測る。検出した状態で、覆土の暗褐色土層はほとんど残つ

ておらず、西側に粘土が堆積する硬質面が、東側に2箇所の焼土の集中部が見られた。壁面は、西壁と南壁面西寄り部分は確認された。東寄り部分では確認されなかった。床面は平坦であるが、西側がやや高く、東側がやや低い。西壁に竈が設けられ、東寄り床面に炉が設置されている。

竈は、北側が調査範囲外に及び、規模は中央部軸長 110 cm 以上である。白色粘土を主体に構築されている。煙道付近から長胴甕 (08) と円礫が出土し、焚口部からシルト質切り石が出土している (第 1855-7 図)。西側周溝より手前の竈右袖部付近で浅い周溝が検出されている。

炉は、楕円形に焼土が巡る。北側一部は床面より 15 cm 隆起し、ブロック状の焼土を含む。規模は、長軸 90cm、短軸 62cm、焼土層 22cm、地山の被熱部分の深さは 38cm を測る。炉の西脇にはビット状の被熱跡が見られた。炉の北側には硬化した白色砂質粘土が堆積し、最大幅 1.5 m で北側調査地区外に広がっている。その硬化面の下層に炭化物を含む黒色の硬化面が広がっていた。炉跡の南側の周溝寄りにも粘土が堆積していたが、粘土の下層は地山である。炉の北側は作業スペースと考えられ、南側の粘土は炉関連の構築物の崩れたものと思われる。

ビットは 20 基確認された。その内、P 1～P 7 は周溝に沿って検出された、いわゆる壁柱穴

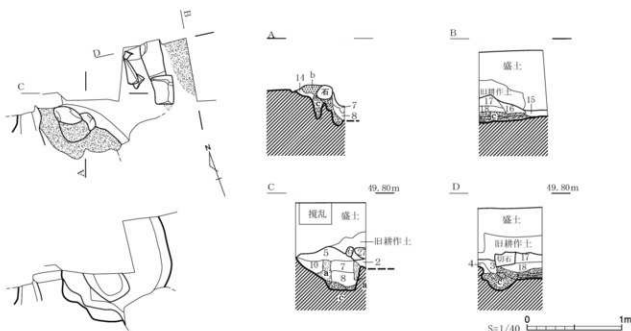


7.1855 次調査報告

S I 13					
グリッド プラン・主軸 規模	N 89 (32 ~ 34, 4 ~ 6) 区。 方形? N - 7? - W。 南北 4.28 以上 × 東西 6.55 以上 m。 高さ最大 20 cm。ほぼ垂直に立ち上がる。	遺 位	置 材	西壁中央?	白色砂質粘土。
壁 ツツ 周 溝	20 個。 廻る。幅 30 × 40 × 深さ 5 ~ 15 cm。 西側の素掘り面が著しく硬化。その周辺は粘土による貼り床。 全体的に良く平坦に掘り込む。	中 央 部	軸 長	110 cm 以上。	
掘 り 方 考	ベット 1 ~ 7 が遺構を取り囲むように検出された。床面は素掘り面が硬化している箇所と、粘土を貼ったその周辺の東側とでは様相が異なるが、全体に平坦である。	壁 掘 り 込 み	壁 深	不明。	
		南 部	内 幅	不明。	
		内 方 掘 り 出 し	床 考	不明。	火床は床面より 15 cm 低い。
		火 燵	の 備		

番号	平面形	長軸	短軸	深さ	備考	番号	平面形	長軸	短軸	深さ	備考
P 1	円形	44	44	61	壁柱穴	P 11	半円形	35	23	12	性格不明
P 2	円形	45	40	51	壁柱穴	P 12	方形	58	50	57	掘方調査時確認
P 3	楕円形	53	33	62	壁柱穴	P 13	楕円形か	65	(55)	57	掘方調査時確認
P 4	楕円形	65	55	100	壁柱穴	P 14	円形	30	30	37	柱穴
P 5	楕円形	47	55	96	壁柱穴	P 15	楕円形	35	20	41	掘方調査時確認
P 6	楕円形	72	85	75	壁柱穴	P 16	円形	(36)	20	15.2	性格不明
P 7	円形	64	(55)	50	壁柱穴	P 17	円形	32	30	30	炉を切る
P 8	円形	23	(15)	23	P1 と重複	P 18	楕円形	(33)	28	20	性格不明
P 9	楕円形	73	45	8	が炉側硬化面を切る	P 19	楕円形	70	55	54	硬化面を切る柱穴
P 10	楕円形	35	25	28	が内ビット	P 20	円形	24	24	54	性格不明

第 1855-6 表 N 89 - S I 13 遺構一覧表



N 89 - S I 13 遺 土 層 説 明

2. 暗褐色土
灰暗褐色土少量。橙色焼土中～大粒、灰白色粘土小～中粒微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。全体的に少量の灰を全体に含む
3. 灰白色粘土
暗褐色土、橙色焼土小～中粒少量、白色粘土中粒微量含む。しまりやや弱。粘性強。
4. 白褐色灰
暗褐色。白褐色灰中量。橙色粒小粒微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
5. 橙色粘土
灰白色粘土小粒、橙色粒小～中粒中量。暗褐色土少量含む。しまりやや強。粘性強。
6. 暗褐色土
灰白色粘土少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
7. 灰白色粘土
褐色粒小粒少量、白色粘土小粒微量含む。しまり弱。粘性やや強。
8. 黄褐色土
ローム粒小粒多量含む。しまりやや強（ボソボソ）。粘性弱。
9. 黄褐色土
ロームブロックφ7～10mm多量。暗褐色土、灰白色粘土小粒少量含む。しまり強。粘性弱。
10. 灰白色粘土
白色粘土Bφ5mm、ローム粒小粒少量含む。しまりやや強。粘性強。
11. 暗褐色土
灰白色粘土小粒、赤色粒小粒微量含む。しまり強。粘性強。
12. 暗褐色土
灰白色粘土小～中粒少量、ローム粒小粒、橙色粒小粒微量含む。しまりやや弱。粘性強。
13. 暗褐色土
灰白色粘土小粒中量、白色粘土φ3mm、ローム粒小粒微量含む。しまり弱。粘性強。
焼土・粘土混合の塊。

第 1855-7 図 N 89 - S I 13 遺 土 層 説 明

であり、南壁沿いのP4・5・6は掘り方が大きく、P4は特に大規模である。

遺物は、土師器の坏・甕、須恵器の坏・蓋・瓶、平瓦が出土している。土師器・坏は03～07を掲載した。北武蔵型が主体で03は、竪穴建物跡の主に西寄りから出土している。06は、丹塗りで、竈付近から出土している。04は、西壁柱穴P1・P2から出土している。07は、竪穴建物跡の南東部から出土している。土師器・甕は、08～12を掲載した。10・11は竈覆土中、12は建物跡南東部、08は復元された長同甕で、竈覆土中から出土している。

須恵器の坏は13・14を掲載した。13は東海型坏である。15は須恵器のかえりの付く蓋で、南東角の壁柱穴P3から出土している。16は須恵器の長頸瓶で胴下部が覆土から出土している。18は、平瓦の可能性のある遺物で、覆土中から出土している。縄文土器・深鉢17が建物跡の東寄り部分から出土している。(第1855-8・9図)。なお、炉跡と周辺の覆土に対して磁石を用い調べたが、鉄製品及び明らかな鉄滓は検出されなかった。

出土遺物から8世紀前半の所産と考えられる。

その他の遺構

N89-SX5 規模は、長さ2.6m、幅0.65m、深さ0.15m～0.35mを測る。暗褐色土を主体とする覆土の様相から、古代の所産と考えられる。遺物は、須恵器・土師器・縄文土器の小片が出土した。縄文土器の深鉢(19)を掲載した。

ピット 4基(P06-101～P06-104)が検出された。P06-101から小型の縄文土器(21)と横位状態の縄文土器(20)が出土した。出土遺物と覆土の特徴から縄文時代中期後半の所産と考えられる。その他に、P06-102、06-104で古代の土師器の小片がそれぞれ出土している。暗褐色土を主体とする覆土の様相から、いずれも奈良・平安時代のピットと考えられる。

遺構No.	グリッド	平面形・規模(cm)	備考
SX5	N89(32・33, 4)	楕円長方形、長軸260×短軸65×深さ35	攪乱に切られる。

表土・攪乱からの出土遺物

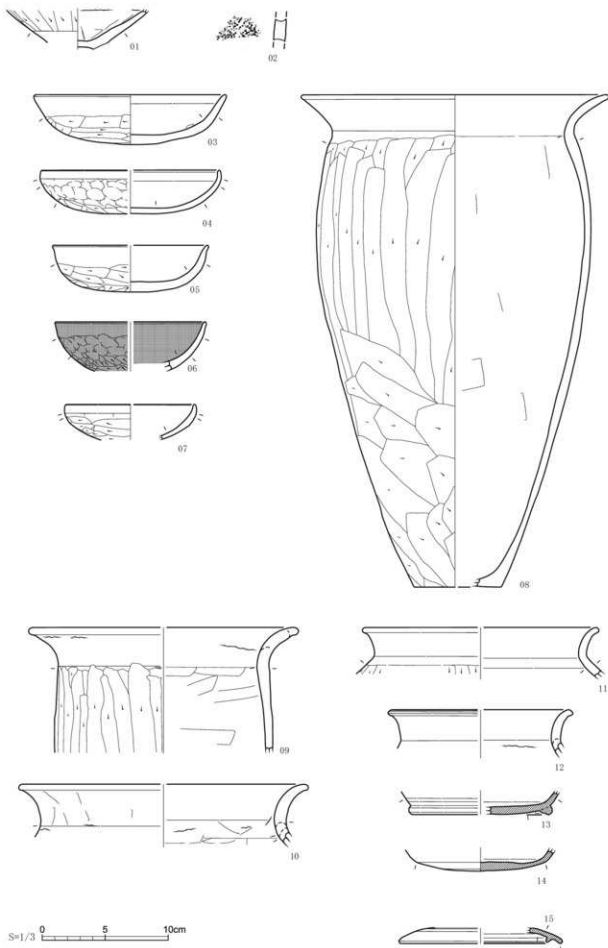
表土からは土師器・坏(22～25)が、攪乱からは須恵器・長頸瓶(28)、須恵器・蓋(27)、近世の陶器・灯明受皿台付(29)、土製焔炉(31)、縄文土器・深鉢(30)、石器・剥片(32・33)、がそれぞれ出土している。

3 まとめ

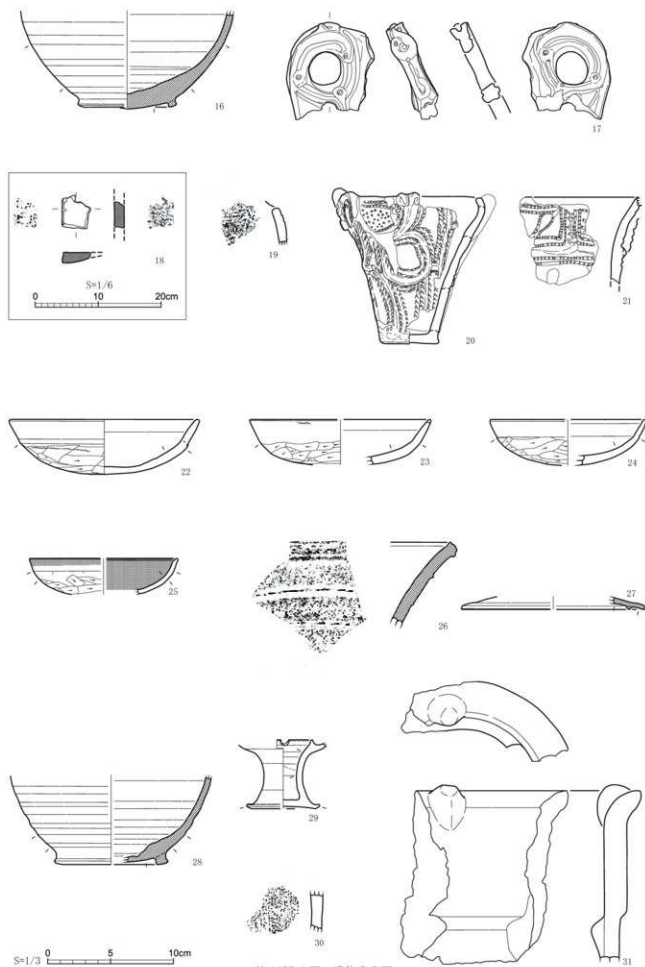
特に注目される遺構は、炉跡を伴う竪穴建物跡S113である。壁沿いに柱穴が配されることも建物構造として特徴的である。特に南壁に並ぶ柱穴は掘り込みが大型であり、炉に伴う作業空間の確保を目的とした配置の可能性も考えられる。炉跡から鉄滓は採取されていないが、高温の火力を使用した施設であるため、鍛冶関連の遺構と想定しておきたい。武蔵国府関連遺跡内で検出された大規模な鍛冶関連遺構の一つとして、国衙地区中心部である宮町1丁目に位置する964次調査地区で検出されたM60-S1128がある(『概報21』)。奈良時代前半と考えられる遺構で、南北に長く南北9m以上、東西約6mを測り、竈の他に炉が3基検出されている。N89-S113はその規模に迫るものであり、国府集落から離れた地域で確認されたことは、清水が丘地域の性格を考える上で重要な遺構といえる。

東府中駅東方の谷頭を中心に広がる縄文時代中期の集落遺跡である清水が丘遺跡は、開析谷の北側に数多くの竪穴建物跡が分布している。当調査地区は開析谷の南約100mに位置している。縄文土器を伴うP06-101は、開析谷南側の集落の広がりを考える手がかりの一つである。

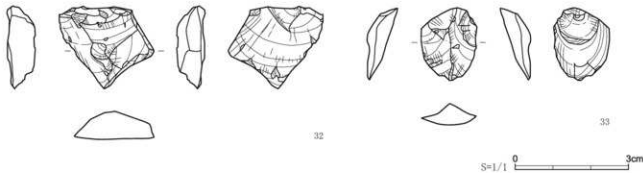
7.1855 次調査報告



第 1855-8 図 遺物実測図 1



第 1855-9 図 遺物実測図 2



第 1855-10 図 遺物実測図 3

No.	遺構	器種	口径・器高・底径	特徴
01	N 89-S I 12	土師器・台付甕	→ (3.3)・→	褐色。明赤褐色。胴最下部 5/8 残存。外面一部煤付着。
02	N 89-S I 12	縄文土器・深鉢	→ (2.0)・→	褐色。胴部少量残存。縄文中・中期。原形瓦の単節縄文を縦位に施文。
03	N 89-S I 13	土師器・坪	15.0・4.0・?	褐色。にぶい褐色。口縁部 3/4 弱。体部～底部ほぼ残存。口縁部・体部外面一部煤付着。
04	N 89-S I 13	土師器・坪	14.1・3.5・?	にぶい褐色。褐色。口縁～体部 1/4 弱。底部 1/8 残存。
05	N 89-S I 13	土師器・坪	12.2・3.7・?	にぶい褐色。黒褐色。口縁部少量。体部 1/4 弱。底部 3/4 弱残存。内・外面一部にタール状の煤付着。
06	N 89-S I 13	土師器・坪	11.9・(3.9)・?	明褐色。口縁～体部 1/4 弱。底部少量残存。全面丹塗り。
07	N 89-S I 13	土師器・坪	10.1・(2.8)・?	明赤褐色。口縁～体部 3/8。底部少量残存。
08	N 89-S I 13	土師器・甕	24.0・(39.1)・6.9	にぶい褐色。浅黄褐色。口縁部 7/8。胴上部・胴下部 1/2 強。底部 1/4 強残存。
09	N 89-S I 13	土師器・甕	20.7・(10.0)・→	にぶい黄褐色。口縁～頸部 1/4 弱。胴上部 1/8 残存。
10	N 89-S I 13	土師器・甕	22.4・(5.0)・→	褐色。口縁～頸部 1/4 弱残存。
11	N 89-S I 13	土師器・甕	18.3・(4.1)・→	にぶい黄褐色。褐色。口縁部 1/8。胴部少量残存。
12	N 89-S I 13	土師器・甕	14.0・(3.8)・→	褐色。口縁部 1/8 残存。
13	N 89-S I 13	須恵器・坪	→ (1.9)・10.9	灰白色。体下部少量。底部 1/4 弱残存。ロクロ回転痕有り。
14	N 89-S I 13	須恵器・坪	→ (1.9)・10.2	灰白色。体下部少量。底部 3/4 強残存。ロクロ回転痕有り。
15	N 89-S I 13	須恵器・蓋	12.7・(1.2)	灰色。口縁部 1/8。天井部少量残存。
16	N 89-S I 13	須恵器・長頸瓶	→ (7.8)・6.7	灰黄色。黄灰色。胴下部 1/8。底部 1/2 強。高台部 1/4 弱残存。底部内面に降灰軸。
17	N 89-S I 13	縄文土器・深鉢	→ (7.7)・→	褐色。少量残存。縄文後期。称名寺 2 式。中央に円孔を有し、内・外・側面に高文垂鬚刺突文。
18	N 89-S I 13	瓦・平瓦	現存長 5.3。現存幅 4.6。現存厚 → 1.7 cm。	明褐色。灰黄褐色。
19	N 89-S X 5	縄文土器・深鉢	→ (3.2)・→	にぶい褐色。口縁部少量残存。縄文中期。胴板 1a 式 (格武式)。波状口縁を呈し、各押文で横長方形に区画し、区画内をジグザグ状に彫琢する。
20	N 89-ピット	縄文土器・深鉢	10.4・(12.1)・4.4	褐色。明赤褐色。口縁部 5/8。体部 3/4 弱。底部ほぼ残存。縄文中期。胴板 1b 式 (新道式)。口縁がわずかに内湾するキャリバー形。口縁部に渦巻状の突起が付く隆起帯に寄り、口縁部は横帯区画文、頸部から体部をバネル文で区画し、隆起帯脇を重三角押文列で押え、一部区画内を円形竹管文、横位波状の三角押文列を充填する。
21	N 89-ピット	縄文土器・深鉢	→ (6.9)・→	明赤褐色。少量残存。縄文中期。胴板 1a 式 (格武式)。口縁部は隆起帯を貼り付け、横位長方形を区画し、隆起帯上を部分的に棒状工具により押圧。隆起帯脇を 2 列の角押文で区画内を斜位に角押文で充填する。
22	N 89-表土 (試掘)	土師器・坪	14.9・4.4・?	明褐色。口縁部 1/2 強。体部・底部 5/8 残存。
23	N 89-表土	土師器・坪	14.2・(3.6)・?	褐色。灰黄褐色。口縁部 1/4 弱。体部 1/4 弱。底部少量残存。
24	N 89-表土	土師器・坪	12.2・(3.7)・?	にぶい黄褐色。黒色。口縁部少量。体部・底部 3/8 残存。
25	N 89-不明 (試掘)	土師器・坪	11.6・(2.9)・?	にぶい黄褐色。にぶい赤褐色。口縁部・体部少量残存。口縁～体上部内面にタール状付着物。体部外面を除き丹塗り。
26	N 89-表土	須恵器・甕	→ (6.9)・→	灰色。褐色。口縁部少量残存。2 段の唇目波状文。
27	N 89-覆瓦	須恵器・蓋	14.5・(1.0)	灰色。口縁部少量残存。胎土に黒底含む。
28	N 89-覆瓦	須恵器・長頸瓶	→ (7.2)・7.5	灰白色。胴下部・底部 1/4 弱残存。内外面一部に降灰軸。胎土に黒底含む。ロクロ回転痕有り。
29	N 89-覆瓦	陶器・灯明受皿台付	→ (5.5)・5.1・油受部径 4.5	胎色淡黄色。口縁部少量。体部ほぼ。底部 1/8。油受部 (上端部) 3/4 弱残存。灰軸・透明釉。信楽産。近世。
30	N 89-覆瓦	縄文土器・深鉢	→ (3.5)・→	黄灰色。黄褐色。胴部少量残存。縄文中期後半。曾利系連環文系が、縦位条線。
31	N 89-覆瓦	土製品・磁伊	→ (14.1)・→	明褐色。全体量不明のため残存不明。
32	N 89-覆瓦	石器・剝片	現存長 22.0。現存幅 25.0。現存厚 7.5 mm。	黒曜石。縄文時代。
33	N 89-覆瓦	石器・剝片	現存長 19.0。現存幅 14.5。現存厚 6.0 mm。	黒曜石。縄文時代。



第 1855-11 図
調査地区全景（南）



第 1855-12 図
N 89 - S 1 12 床面全景（西）



第 1855-13 図
N 89 - S 1 12 端全景（西）

7.1855 次調査報告



第 1855-14 図
N 89 - S I 13 床面全景 (東)



第 1855-15 図
N 89 - S I 13 竈焼成面全景
(南)



N 89 - S I 12(01)



N 89 - S I 12(02)



N 89 - S I 13(03)



N 89 - S I 13(04)



N 89 - S I 13(05)



N 89 - S I 13(06)

第 1855-16 図 出土遺物 - 1



N 89 - S I 13(07)



N 89 - S I 13(09)



N 89 - S I 13(12)



N 89 - S I 13(15)



N 89 - S I 13(18)



N 89 - S X 5 (19)



N 89 - S I 13(08)



N 89 - S I 13(13)



N 89 - S I 13(16)



N 89 - ビット (21)



N 89 - S I 13(10)



N 89 - S I 13(11)



N 89 - S I 13(14)



N 89 - S I 13(17)



N 89 - ビット (20)

第 1855-17 図 出土遺物-2

7.1855 次調査報告



N 89 - トレンチ 1 - 表土 (22)



N 89 - 表土 (23)



N 89 - 表土 (24)



N 89 - 表土 (26)



N 89 - 攪乱 (27)



N 89 - 攪乱 (28)



N 89 - 攪乱 (29)



N 89 - 攪乱 (31)



N 89 - 攪乱 (30)



N 89 - 攪乱 (32)



N 89 - 攪乱 (33)



N 89 - トレンチ 3 (25)



第 1855-18 図 出土遺物-3